

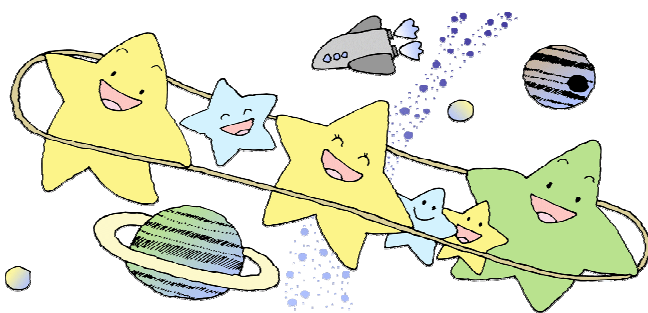
ここにも 星が いっぱい

～多目的ホール・ほんの数分のできことから～



今日中の締め切りに向けて、校長室で学校だよりの原稿を書いています。そんな昼休みの出来事です。明日は希望ステージでの発表です。多目的ホールから、合唱の器楽伴奏曲が聞こえてきました。「音楽クラブの子ども達、伴奏、がんばってるなあ」と思いながら聞いていました。少しして多目的ホールに行きました。担当の先生がいません。クラブの子達が自分達で自主的に練習しているのでした。そして練習しているクラブ員の前や脇を1年生や2年生が囲んでいます。エレクトーンの指使い、木琴、鉄琴のマレット（パチ）の動きを目を凝らして見つめています。「星ひとつ」と「未知という名の船に乗り」の2曲は、音楽クラブ員が担当を代わりながら伴

奏することになっています。そこで、楽器の前に立っている子を見るだけで、子ども達は何の曲が伴奏されるのかが十分にわかっているのです。掃除前ということで、紅白帽をかぶったまま、小さく口ずさむ子がいます。すると、5年生の子が「はい、並んで」と1年生たちを楽器の前に並ばそうとしています。「歌おう」と誘っているのです。「わたし、アルトやりたーい」と1年の女の子。すでに「ハモる」ことを楽しもうとしています。「星ひとつ」を伴奏する子がエレクトーンを弾こうとしています。「星ひとつだー」と声を出す1年生。最初の「はしがまたひとつふえた」のあたりは、恥ずかしそうに小さな声だったのですが、2番目の歌詞になっていくにつれ、次第に声も大きくなり、小さな子ども達の歌の輪が次第に広がっていきました。朝の練習の時のようなきれいな声が多目的ホールに響きます。すると、上の方からも歌声が聞こえてきました。見上げると、高学年の何人かの女子も階下のかわいい声に触発されたのでしょうか。上の手すりの所から顔を出して、声を合わせて歌ってくれたのです。「未知という名の・・・」の歌では元気のいい声が響きます。



昼休み、掃除時間前のほんの数分間の出来事でした。でも、高学年の子ども達と1年生達、1階と2階の子達との自然発生的な出来事が、さりげない日々の生活の中で見られたことに、なぜか心を打たれたのでした。「学校って本当にいいな」そう思えた一瞬でした。こうした子ども達の何気ない姿に心を動かされ、子ども達の内面に「いじらしさ」があふれていることを感じる場面に遭遇できたことがうれしくてたまりません。

11月一杯まで「読書まつり」を実施しています。読書活動の推進と読書習慣を充実させることがねらいです。平田ボランティアの方からの紙芝居や読み聞かせ等の公演をしていただき、詩の朗読の会の阿蘇孝子氏からは、高学年に吉野弘の詩の朗読をしていただきました。また、「リーディングパティ」という、上級生の子から下級生の子に対する、ペアでの読み聞かせ活動も実施しました。上級生は下級生の子が喜びそうな本を選び、本が好きになるような読み方を考え、工夫してい

きます。

上級生は何度も下級生に本の楽しさが伝わるように学校や家で練習を重ねてきました。当日は、上級生の話の下級生が様々な表情を見せていました。上級生と一緒に笑顔で本を見る子、お話の中に引き込まれて、真剣な表情の子など様々です。ロング昼休みの前半の限られた時間でしたが、読書を楽しむとともに、異学年の交流もできたことと思います。また、児童会での縦割り遊び集会でも、清掃の縦割り班で謎解きしながら校内を回る子ども達の心はみんな穏やかでした。クラブ活動でも地域の先生方からは将棋や絵手紙の手ほどきを受けて、充実した時間を過ごすことができました。



いじめ調査から

今年度2回目のいじめ調査をさせていただいております。調査にあたっては、保護者の皆様から也十分にご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。教職員同士でアンテナを張り巡らせながら、早期に発見し、早期に教職員一丸となって組織的に解決するように努めている所ですが、残念ながら、保護者の皆様や児童からの情報で発見できる数が多いという現状です。



現在、得られた情報については、当事者への聞き取りや事実確認等を行いながら、対応しているところです。調査依頼のお手紙でも書かせていただきましたが、「いじめ」については「いじめ防止対策推進法」の施行にともない、次のように定義されています。「『いじめ』とは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」で、学校の内外を問わないものとされています。文章だけでは、なかなか判断しづらい部分もあるかもしれませんが、「心身の苦痛」は、「被害を受けた」立場の方の主観に基づくものであり、「加害」の立場の方との主観の違いが生じることも予想されるからです。おとなの社会では、「モラハラ」「パワハラ」「セクハラ」「マタハラ」など、様々な「ハラスメント」に関する報道がなされ、「〇〇ハラ」と新しい言葉も生まれています。「会社でのいじめ」という言葉も目にするがあります。保護者の方々が記述してくれた文も一通り読ませていただきましたが、様々な捉え方や家庭での対応がありました。皆様が真剣に考えていらっしゃることも感じました。今までの繰り返しになりますが、いじめはどこの学校でも起こりうる事、どの子にも起こりうる事を再度確認させていただければ幸いです。また、過去の調査では、「どの子にも起こりうる事」というのは、現在の「加害者」と「被害者」の関係が、時間の経過や環境の変化などで逆転する場合があります。また、多くの子ども達が加害者と被害者の両方を経験していることが明らかになっております。これから先、中学、高校、社会人生活においても決して無関係なままでいるという保障はありません。そこで、「どんな大人（人間）になってほしいのか」という、子どもの将来像を見据え、子ども達と向き合い、子ども達の心にしみこむ対応が大切かと思っております。そして、子ども達の力を十分に引き出しながら、よい方向に導き、解決していきたいと考えております。教師として多くの子どもの成長を見てきた立場から、現在担当している子ども達を見たとき、不安を感じることはないと言い切れないこともまた事実です。場合によっては家庭と学校での「顔」の違いを直視すること、今まで気づいてきた信念をもう一度見直すことに、ご家族の方の「受容する勇氣」を必要とする事もあるかもしれません。わが子の健やかな成長を願う気持ちはご家族の方も教師も同じだと確信しております。是非とも心をひとつにして進みたいと願っております。

☆☆☆ 前回の学校だよりを読まれた複数の地域の方から、「星ひとつの歌ってどんな歌詞なの？」と尋ねられました。そこで、ここに記載させていただきます。 ☆☆☆

～ ほしひとつ ～

- 1 夜空を旅する星達を 小さな指で かぞえてごらん
あなたが 生まれた日に 星が またひとつ ふえた
- 2 夜空を旅する星たちを 小さな声で かぞえてごらん
あなたが おしゃべりした日 星が またひとつ ふえた
流れ星がひとつ 願い事は なに？
小さい頃からの 願いをかなえてね
- 3 夜空を旅する星たちを いつか二人で かぞえてごらん
あなたが およめさんになる日に 星がいっぱい
あなたが およめさんになる日に 星がいっぱい



** 作詞:神崎ゆう子 ・作曲:坂田 修 **